

乾燥減量 5.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 5 時間).

定量法

(1) 水銀 本品を粉末とした後、乾燥し、その約 0.6 g を精密に量り、ヨウ素瓶に入れ、水 50 mL に溶かし、酢酸 (31) 8 mL 及びクロロホルム 20 mL を加え、更に正確に 0.05 mol/L ヨウ素液 30 mL を加えて密栓し、しばしば強く振り混ぜて 1 時間放置する。この液を再び激しく振り動かしながら過量のヨウ素を 0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する（指示薬：デンプン試液 1 mL）。同様の方法で空試験を行う。

$$0.05 \text{ mol/L ヨウ素液 } 1 \text{ mL} = 10.030 \text{ mg Hg}$$

(2) 臭素 本品を粉末とした後、乾燥し、その約 0.5 g を精密に量り、るっぽに入れ、硝酸カリウム 2 g、炭酸カリウム 3 g 及び無水炭酸ナトリウム 3 g を加えてよく混和し、更にその表面を炭酸カリウム及び無水炭酸ナトリウムの等量混合物 3 g で覆い、ほとんど融解するまで加熱する。冷後、温湯 80 mL を加えて溶かし、硝酸を加えて酸性とし、0.1 mol/L 硝酸銀液 25 mL を正確に加え、よく振り混ぜ、過量の硝酸銀を 0.1 mol/L チオシアン酸アンモニウム液で滴定する（指示薬：硫酸アンモニウム鉄（III）試液 2 mL）。同様の方法で空試験を行う。

$$0.1 \text{ mol/L 硝酸銀液 } 1 \text{ mL} = 7.990 \text{ mg Br}$$

貯 法

保存条件 遮光して保存する。
容器 気密容器。

マーキュロクロム液

Mercurochrome Solution

メルブロミン液

本品は定量するとき、水銀 (Hg : 200.59) 0.42 ~ 0.56 w/v% を含む。

製 法

マーキュロクロム	20 g
精 製 水	適 量
全 量	1000 mL

以上をとり、振り混ぜて製する。

性 状 本品は暗赤色の液である。

確認試験

- (1) 本品 1 mL に水 40 mL を加えるとき、液は赤色を呈し、黄緑色の蛍光を発する。
- (2) 本品 1 mL に水 4 mL を加え、希硫酸 3 滴を加えるとき、赤みのだいだい色の沈殿を生じる。
- (3) 本品 5 mL を蒸発乾固し、残留物につき、「マーキュロクロム」の確認試験（3）を準用する。
- (4) 本品 5 mL に水酸化ナトリウム溶液 (1 → 6) 1 mL を加え、以下「マーキュロクロム」の確認試験（4）を準用する。

純度試験 色素 本品 20 mL に希硫酸 3 mL を加え、生じた沈殿をろ過するとき、ろ液の色は色の比較液 C より濃くない。

定 量 法 本品 30 mL を正確に量り、ヨウ素瓶に入れ、水 20 mL を加え、酢酸 (31) 8 mL 及びクロロホルム 20 mL を加え、以下「マーキュロクロム」の定量法（1）を準用する。

$$0.05 \text{ mol/L ヨウ素液 } 1 \text{ mL} = 10.030 \text{ mg Hg}$$

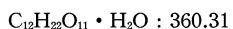
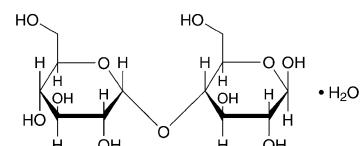
貯 法

保存条件 遮光して保存する。
容器 気密容器。

マルトース

Maltose

麦芽糖



4-O- α -D-Glucopyranosyl- β -D-glucopyranose monohydrate [6363-53-7]

本品を乾燥したものは定量するとき、マルトース ($\text{C}_{12}\text{H}_{22}\text{O}_{11} \cdot \text{H}_2\text{O}$) 98.0 % 以上を含む。

性 状 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、味は甘い。本品は水に溶けやすく、エタノール（95）に極めて溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

確認試験

- (1) 本品 0.5 g を水 5 mL に溶かし、アンモニア試液 5 mL を加え、水浴上で 5 分間加熱するとき、液はだいだい赤色を呈する。
- (2) 本品の水溶液 (1 → 50) 2 ~ 3 滴を沸騰フェーリング試液 5 mL に加えるとき、赤色の沈殿を生じる。

旋 光 度 $[\alpha]_D^{20} : +126 \sim +131^\circ$ 本品を乾燥し、その約 10 g を精密に量り、アンモニア試液 0.2 mL 及び水を加えて溶かし、正確に 100 mL とし、この液につき層長 100 mm で測定する。

pH 本品 1.0 g を水 10 mL に溶かした液の pH は 4.5 ~ 6.5 である。

純度試験

- (1) 溶状 本品 10 g をとり、水 30 mL を入れたネッラー管に加え、60 °C の水浴中で加温して溶かす。冷後、水を加えて 50 mL とするとき、液は澄明で、液の色は次の比較液より濃くない。

比較液：塩化コバルト（II）の色の比較原液 1.0 mL、塩化鉄（III）の色の比較原液 3.0 mL 及び硫酸銅（II）の色の比較原液 2.0 mL の混液に水を加えて 10.0 mL とした液 1.0 mL をとり、水を加えて 50 mL とする。

(2) 塩化物 本品 2.0 g をとり、試験を行う。比較液には 0.01 mol/L 塩酸 1.0 mL を加える (0.018 % 以下)。

(3) 硫酸塩 本品 2.0 g をとり、試験を行う。比較液に